

令和8年度 中学3年 シラバス

□科目	道 徳		
□授業時数	1時間 /週		
□教材	自分をのばす3（廣済堂あかつき），中学生の道徳ノート3（廣済堂あかつき）		
□学習到達目標	○より高い目標に向かってねばり強く取り組み，理想の実現を目指す。 ○人間尊重の精神を基盤に，他者に対して思いやりと寛容の心をもって接する。 ○人間としての最低限の規範意識を身につけ，積極的な社会参画の自覚を深める。 ○多様性（ダイバーシティ）について積極的な理解を示す態度を養う。		
□成績評価基準	年間を通じた授業態度，道徳ノートやワークシート等の提出などによって総合的に評価する。		
□授業計画	単 元・項 目	内 容	備 考
4月	・夢へのステップ—大谷翔平	各クラスの実情に合わせて単元を選択する。 目標設定シートが大谷選手に与えた影響について考えることを通して，目標達成を目指して努力を積み重ねることは自信と次に向け挑戦する勇気をもたらすことに気づき，自己の可能性を伸ばし，より高い目標の達成を目指して人生を切り拓いていこうとする道徳的態度を養う。	より高い目標を目指す
	・おひだまり	おひだまりの下で本当の自分の思いを見つめるあずみの心情について考えることを通して，家族の愛情と自らの家族への敬愛の念とで生まれる絆に気づき，自分自身と家族の関係を見直し，よりよい家族関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。	家族の愛情と家族への敬愛
5月	・十五分後の奇跡	感染症で意識がない女性の出産という奇跡のような出来事について話し合うことを通して，人間の力を超えた生命の不思議さや尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を培う。	生命の不思議
	・挨拶のちから	挨拶に込められた思いや礼儀の意義についての意見交流を通して，相手の人格を認め，尊敬や感謝の念を伝える礼儀のよさや大切さに気づき，時と場に応じて適切な言動をとろうとする道徳的実践意欲を培う。	礼儀の意義
6月	・ライバル	友情をめぐる良心の呵責に苦しみながらも，それを乗り越えていこうとする啓介と康夫の心情を共感的に理解することを通して，心から信頼できる友達のよさや大切さに気づき，信頼で結ばれ，互いに励まし合い，高め合う関係を築いていきたいと願う道徳的心情を育む。	心から信頼できる友達
	・卒業文集最後の二行	T子さんへのいじめを悔いる筆者の心情について考えることを通して，愚かないじめを引き起こす人間の弱さや醜さに気づき，差別や偏見，いじめや不正な言動を断固として許さない道徳的態度を養う。	いじめの残酷さ
7月	・君たちはどう考え，どう生きるか	さまざまな意見を読んで，いじめと人間としての生き方について考え，いじめの残酷さやその根底にある人間の弱さや醜さに気づき，自らの弱さや醜さと向き合っ，それを乗り越	いじめと道徳
	・監督がくれたメダル	嫌だったノックを丁寧に打つようになった「私」の心の変化について考えることを通して，集団における役割を果たすよさや大切さに気づき，自己の所属する集団の意義や役割を理解し，責任を自覚して集団生活の充実に努める道徳的実践意欲を培う。	役割と責任の自覚
9月	・ピヨ子	さくらの画像が拡散したことへの登場人物の姿勢について考えることを通して，情報社会における行為と責任の関係を見つめ直すことの大切さに気づき，自ら考え，判断し，実行し，自己の行為の結果に責任をもつ道徳的態度を養う。	責任の自覚
	・リアルとネットの不思議	現実の生活に置き換えるとおかしいことがインターネット上ではよく起きている理由を考えることを通して，情報機器では度を過ぎやすくなることの要因とより慎重に考えることの大切さに気づき，節度を守り，安全で調和のある生活を送ろうとする道徳的判断力を高める。	安全で調和のある生活

令和8年度 中学3年 シラバス

□授業計画	単元・項目	内 容	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカー論争 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の見えない白鳥さんとアートを見に行く <ul style="list-style-type: none"> ・月明りで見送った夜汽車 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドナー <p>12月</p>	<p>ベビーカー論争の解決について考えることを通して、社会生活における公德心の大切さに気づき、遵法精神とそれを支える公德心を大切にして、誰もが暮らしやすい安定した社会の実現に努める道徳的態度を養う。</p> <p>目の見えない白鳥さんとの鑑賞体験における鑑賞者の変化について考えることを通して、いろいろなものの見方や考え方を学ぶことで自己を高めていけることに気づかせ、寛容の心でそれぞれの個性や立場を尊重しようとする道徳的態度を養う。</p> <p>I先生の気持ちを察して電気を消すY先生と、それに対して声をあげ拍手を送る先生たちの思いについて考えることを通して、相手の重荷にならない思いやりのよさや大切さに気づき、深い理解と共感に基づく思いやりの心を大切にする道徳的心情を育む。</p> <p>二つの投書の意見の根底にある命に対する感じ方や考え方を探り、生命倫理の問題について考えることを通して、人間の生命は多面的・多角的にとらえることができることに気づき、自他の生命の尊厳を守る道徳的態度を養う。</p>	<p>公德心</p> <p>相互理解を深める意義</p> <p>思いやりの心</p> <p>生命倫理をめぐる葛藤</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ある元旦のこと <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かのために <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな手鏡 なるときー <p>3月</p>	<p>挨拶板に深々と頭を下げる少年を目撃した筆者の感動を共感的に理解することを通して、人と人の心の通い合いのよさに気づき、人は互いに支え合って生きていることを自覚し、思いやりと感謝の心をもって他者に接しようとする道徳的実践意欲を培う。</p> <p>残りわずかな時間を子どもたちのために必死に生きようとする母の姿から、「誰かのために生きる」ことについて考えることを通して、生命の尊さを有限性や関係性など多面的・多角的に理解し、かけがえのない生命を尊重する道徳的心情を育む。</p> <p>筆者の考えを知り、道徳科での学習を振り返ることを通して、自己理解、他者理解、人間理解に基づく自己の生き方を考える大切さに気づき、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方を通じて人間としての誇りを大切にしようとする道徳的実践意欲を培う。</p>	<p>心の通い合い</p> <p>人が生きるということ</p> <p>自己の生き方を考える</p>